

次号予告

特集 コンピュータ・マッピング

東京ガスにおけるAM/FM/GIS

……安藤宣明(東京ガス), 遠藤 陽(東京ガス)

東京都水道局におけるマッピングシステムの導入と
今後の課題……船井洋文(東京都水道局)

道路管理システム(ROADIS)

……山根浩司(建設省)

マッピングシステムの多面的活用について

……鈴木 弘(大成建設)

シンクタンクにおけるGISの活用について—地域
政策・マーケティングへの適用例

……福井弘道(住信基礎研)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長	若山 邦紘	法政大学
副委員長	浦谷 規	法政大学
委員	上野 哲郎	和光大学
	大村 雄史	住友商事(株)
	城川 俊一	東洋大学
	川合 庸一	川合産業研究事務所
	小池 将貴	筑波技術短期大学
	逆瀬川浩孝	筑波大学
	坂本 善博	富士通(株)
	新村 秀一	住商情報システム(株)
	高橋 真吾	東京工業大学
	高橋 敬隆	日本電信電話(株)
	宮田 勝智	青山学院女子短期大学
	山下勝比拡	例東芝
	吉田 敏弘	ソロモン・ブラザーズ・ アジア証券会社

編集後記

●基本的に編集後記は編集委員が順番で担当しているわけですが、今回、偶然にも私が編集後記を担当することになりました。「偶然にも」というのは、私は今回の特集の中でも取り上げられている筑波大学経営システム科学の第1期生にあたるからです。本特集では、提供する側からの議論が中心だったので、ここで、(かつての)学生の立場から一言つけ加えてみたいと思います。

●入学は今から4年近く前、卒業してからも2年近い年月がたちましたが、当時は、教官の方々と同様、学生の方も第1期生という自負と使命感にあふれていたように思います。授業が終わった後も、夜遅くまで(翌日のことは考えずに)「談話会」という形式で教官も交えて活発にディスカッションをしたことが印象に残っています。その中には、経営システム科学におけるカリキュラムのあり方といったテーマも含まれていました。

●特集の中でも、何人かの方が触れていたように、社会人があらためて大学院に行くということは、私自身がそ

うであったように、当然それなりの問題意識があつてのことです。ところが、一方で、その問題意識のみが空回りし、学ぶべきは問題に取り組むためのアプローチの方法であつて、問題自体は自分が解くものであるという意識が希薄化してしまうケース、逆に、与えられた多彩なカリキュラムの中で問題意識を喪失してしまうケースなども見受けられた気がします。これは、社会人が、ともすると手っとり早く結論のみを得ようとする習性を引きずってくることで、大学側でも、従来の学生のものとは異なる問題意識に対処するために「必要となるもの」への配慮がまだまだ不十分であることに起因しているような気がします(それが何かといわれると確かに難しいのですが)。

●大学院教育の「新」潮流は、まさに新しい試みであり、それゆえ、それを受け入れる社会の側にも、提供する大学の側にも大きな努力が求められるということなのでしょう。(吉田 敏弘)

本誌に記載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成5年4月号 第38巻 第4号 通巻388号

代表者 伊理 正夫

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会
東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル
電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113

編集人 若山 邦紘

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価 950円(本体922円, 郵送料含)年間予約購読料10,800円(税・郵送料含)

●本誌への広告お申し込みは明報社 (3546-1337), 日経弘報社 (3563-2241) へ